

令和3年度第13回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 令和3年10月27日（水）9：00～9：21
- 2 場 所 教育委員会会議室 ハーバーセンター4階
- 3 出席者 <教育委員会>
長田教育長
正司委員 今井委員 山下委員 本田委員
<事務局>
長谷川事務局長兼教育次長 山下教育次長 工藤総務部長
竹森学校支援部長 羽田野学校計画担当部長 藤原学校教育部長
松本教科指導担当部長兼総合教育センター所長 河野児童生徒担当部長
- 4 欠席者 梶木委員
- 5 傍聴者 0名（一般0名・報道0名／報道0社）
- 6 会議内容

（長田教育長）

おはようございます。それでは、ただいまから教育委員会会議を始めます。

本日は、協議事項3件、報告事項1件です。

まず、非公開事項について、お諮りをいたします。

このうち協議事項28、協議事項30、報告事項1につきましては、教育委員会会議規則第10条第1項第6号の規定により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものに該当すると思われまますので、非公開としたいと思いましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（賛同）

（長田教育長）

ありがとうございます。それでは、今、申し上げました協議事項、報告事項につきましては、非公開といたします。

協議事項29 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況について

（長田教育長）

それでは、まず協議事項29、令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況についてです。

それでは、説明をお願いします。

(吉井児童生徒課長)

おはようございます。児童生徒課吉井です。よろしく申し上げます。それでは、令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況について御説明をさせていただきたいと思えます。これについては委員の先生方に既にメールのほうで御報告をさせていただいてる事項で、10月13日に新聞については公表をさせていただいてまして、翌日の朝刊等に各紙全国、ないしは、兵庫県の状況が記事に載っていることは御承知おきのことだと思えます。各紙では小中学の不登校が最多の19万人であるとか、あとコロナによる自主休校3万人、あといじめ事案のほうは減少といった見出しが出てたというふうに思えます。

それでは、資料に基づきまして御説明をさせていただきます。まず資料1ページから2ページについては全体の概要を、3ページ以降については、その詳細、少し詳しい内容を掲載させていただいてます。概要版のほうで御説明をさせていただきたいと思えます。

まず1、暴力行為についてということでございますけれども、発生件数につきましては、ここ全体で小中校927件、前年度は995件ということで若干の減少ということでございます。全国的な傾向とこれも変わりありません。それと、あとこの2つ目のところにありますように、暴力行為の内訳で最も多いのが生徒間の暴力ということで81.7%。次に器物損壊、続いて対教師暴力がほぼ同数ということで、これについては3ページ、すみません、ちょっと飛びますけど、3ページに2の暴力行為の内訳が書いておりますので御覧いただけたらと思えます。今後の対策といたしましては、ちょうど中ほどにありますとおり、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携、あと、こども家庭センターや警察といった関係機関とも連携をしながら、未然防止、早期発見、早期対応に取り組むこととしております。

続きまして2、いじめについてでございます。(1)にありますとおり合計で5,495件、前年度6,866件と比較すると、1,400件ほど減少しております。前年度の8割程度となっておりますけれども、これについては昨年度4月、5月と休業を、学校休業ということで2か月間休校させていただきましたので、そういった影響で認知件数が減少したものと推察をしております。

続きまして、(2)いじめの解消状況ということで、神戸市63.8%、全国77.4%と数字が若干下回っておりますけれども、これについては解決した割合が低いと一方で見えますけれども、丁寧に調査、見守りを続けるというようなことで、すぐに解決としていないということが、こういう数字で表れているというふうに考えております。

(3)いじめのいわゆる発見のきっかけ、これが神戸市の大きな特徴ですけれども、教職員の発見が最も多く約30%、30.8%ということで、全国の12%と比較しても非常に高い割合。こういう傾向が前年から変わっておりません。教職員の発見が一番多いという状況です。一方で、アンケート調査、一番下のところですけども学校の取組による発見という

のが若干全国に比べると低い状況とあります。ただ昨年度、いじめアンケートを統一した項目でやるというようなことで、あと児童生徒が回答しやすくしたというようなことがありまして、前年度と比較すると2.9%から10.8%、約4倍ほどの大きく上昇したという結果が出ております。

続きまして、次のページに参りまして、いじめる児童生徒への特別な対応ということで、これも神戸市の特徴でありますけども、いじめる児童生徒のほうですけども、保護者への報告ということをして79.3%させていただいてるという状況です。全国と比較しても非常に高い割合。あと、いじめられた児童生徒への特別な対応ということについても、全国では10.5%なんですけども、神戸市では70%家庭訪問をして丁寧に対応しているというような状況になっております。

続きまして、3の長期欠席につきまして御説明をさせていただきます。不登校の状況、真ん中のところの太枠のところですけども、高校では若干減少に転じているものの、小学校、中学校では増加しており、全国的な傾向と変わりはありません。ここがちょっと増えているという状況でございます。今年度の調査で新規項目として新型コロナウイルス感染回避として長期欠席した児童数の統計がございますが、本市では小学校71人、中学校44人、高等学校で17人ということで合計132人という結果になっております。

あと不登校児童生徒への対応として、下に今後の対応等ということで書かせていただいておりますけども、青少年育成センター及び市内7か所に設置している分室において児童生徒の社会的自立に向けた支援を行うほか、フリースクール等に通う児童生徒の支援として認定するなどの対応を行っております。

説明については以上になります。

(長田教育長)

それでは、この件について御質問はございませんでしょうか。

なお、今後の方針に関する内容につきましては、教育委員会会議規則第10条第1項第6号の規定により、後ほど非公開の場で今後の方針については協議をしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(賛同)

(長田教育長)

それでは、今後の方針以外のことにつきまして御質問、御意見があればお願いをしたいと思います。

どうぞ。

(正司委員)

御報告ありがとうございました。もし、お手元に資料があれば教えていただきたい。いじめの対応で大きなもの2種類の説明があるんですけど、残り3割ぐらい残ってるんですが、ほかはどんな項目が上がってるのでしょうか。项目的に少ないようであれば別にいいですけども。全国だったら、この2つの理由で8割ぐらいですけども、神戸市は7割だったものですから、ちょっとほか何かあるのかなと思ひまして。

(吉井児童生徒課長)

5ページの詳細を見ていただきたいと思ひます。いじめの対応のところでは一番多いのが「冷やかす、からかい」ということで一番上になっております。あと、③のところでは「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたり」というのが22.4%。あと、同じような対応ですね。「ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたり」というのが11.8%。あと、その下⑦になりますけど、「いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」のが11.2%となっております。

(正司委員)

ありがとうございます。

(長田教育長)

よろしいでしょうか。ほかにございせんか。

今井委員、どうぞ。

(今井委員)

ありがとうございます。暴力行為のところには中学校の暴力行為の数字がちょっと全国平均とかと比較すると割合が高かったように思ひんですけど、そのあたり何かありますか。割合のところ、1,000人当たりってところでは。

(小菅生徒指導担当課長)

非常にこう重いものから軽微なものまでであると思ひますけども、丁寧に学校が捉えているというふうなところで数が比較的多くなっているということは考えられると思ひます。ですから、もう本当にこうして殴るようなこともあれば、叩くこともあります。ただ丁寧に丁寧に細かいところまで意見のほうは拾っております。

(長田教育長)

令和元年度とかその前年度とか、ここ最近この中学校の暴力行為は全国平均に比べて、ずっと今言われたような理由で高い状況が続いているという理解でいいですかね。この令和2年度だけ突出したということではないと思ひます。前年度、前々年度の数字が今ないですか。

(吉井児童生徒課長)

はい、持ってます。中学校で言いますと、前年度、中学校自体、全部で498件、これが元年度の数字としても498件で、今年度について、今年度というか令和2年度で468件、数は減っています。

(長田教育長)

この資料でも令和元年度の数値、括弧書きであるので分かるんですけど、少しこの傾向をまた。

(吉井児童生徒課長)

傾向のところですね。

(長田教育長)

調べていただいて、またお知らせください。

(吉井児童生徒課長)

後ほどすみません。

(長田教育長)

今井委員、どうぞ。

(今井委員)

いいですか。また別の件、いじめのアンケートで、いじめ発見のそのきっかけというか、アンケートに、アンケートを契機として認知できるっていうのが、もともとすごく神戸市低かったのが、アンケートのその様式を変えて統一化したりすることで少し高まったとはいえ、やっぱり全国平均とかから見ると、かなりちょっと数字の開きがあるんですけど、そのあたりはどのように分析されてますでしょうか。

(小菅生徒指導担当課長)

アンケートで発見するよりも、逆に言うと、教師の職員の発見が多いという部分があって、そこでカバーができてるというわけではないんですけども、いわゆるそのきっかけとして、そのアンケートで初めて分かった、教職員がこう日頃から児童生徒を見てるところで発見したというところで、やはりいわゆる見守りをしっかりやっているとところで教職員の発見の率が高くなってるというふうに我々は考えております。アンケートについても昨年度から同じ統一様式での回答しやすいものにしてるので、その発見、そういった

ところも、やはり今後割合としては上がってくるものと思いますけども、そういった状況かなと思っています。

(長田教育長)

いずにしても、もともとそういう努力はしているけれども、昨年度まではアンケートのこの発見の率が全国と比べて神戸市は極端に低かったということですけども、令和2年度、この8%ほど上がってるというのは、やっぱりアンケート様式を統一して引き出しやすいとか、答えやすいような内容に変えたということがやっぱり要素としては大きいという理解でいいんですかね。

(小菅生徒指導担当課長)

はい。

(長田教育長)

そう考えていいんですね。

(小菅生徒指導担当課長)

はい。

(長田教育長)

どうぞ。

(本田委員)

それに関連してあるんですけれども、いいふうに捉えると、教職員がよく発見しているというふうにも捉えられるかと思うんですけど、このアンケートの調査の内容、今も吟味されたってことなんですけど、それでもこう全国に比べると、かなり差があるんですけど、全国で使われてる様式とすごく差があるってことなんですか。というわけではないんでしょうか。

(小菅生徒指導担当課長)

今回、新しくしたことにつきましては、有識者の方にも入っていただいてアンケートの内容を吟味して作ったものです。ですから、自治体によっては若干ニュアンスとか表現の仕方は違うところもあるかと思いますが、いじめについて幅広く捉えるアンケートにはなってると思っています。あと、学年によっても問い方については変えております。そのあたりを今後、また引き続き1度作ってやっておりますけれども、中身はまた精査していきたいというふうに考えておるところです。

(本田委員)

神戸市の中で検討されてるのはすごく分かるんですけど、この全国ほかで使われてるとすごく差はあるのかどうかっていうのがお聞きしたかったんですけど。余りにも数字に差があるので。

(小菅生徒指導担当課長)

そうですね。おっしゃるところはあるかと思imasので、今後また御意見いただきましたことを基に精査してまいりたいと思imas。

(本田委員)

ありがとうございます。

(長田教育長)

いや恐らく、でも、今回アンケート様式を統一して変えるときに他都市の状況を調べてますでしょう。

(本田委員)

そう思って。

(長田教育長)

だから、そんなに私も大差はないと思imasのですが、いずれにしても、このアンケートというのは学期に1回ですよ。

(小菅生徒指導担当課長)

はい。

(長田教育長)

その定期的っていうのは学期にあくまで1回なので年度でいうと3回、どういうふうにかえるかというのは難しいかも分かりませんが、いろんなこの選択肢というか、いろんなところから拾い上げる、そういう中で日々教職員なりがしっかりと子供の状況を見て、やっぱり発見につなげていくということも大事だと思imasので、そういう意味では、このなかなかどれがどうかというのは、率が高ければいいというような何か正解というかいはないような気もしますけども、いずれにしてもいろんな手法の中で、できるだけ拾い上げていくという姿勢が大事なんじゃないかなと思imas。

(本田委員)

アンケートの中身だけじゃなくて回数とかタイミングとかにもよるのかなとも、今お聞きしてて思ったんですけど、もちろんアンケートがね。いいというわけではなくて、いろんなところで拾い上げられるのがいいなと思います。ありがとうございます。

(長田教育長)

どうぞ。

(山下委員)

前後順序が逆になるかもしれないんですけど、今のアンケートのことについては、今形式という、あるいは、設問ということで焦点が当たってると思うんですけど、プロセスによっては、まず子供が書くか書かないかっていう部分と、その形式の次にですね。で、さらにそのアンケートを受け取った学校側がどういうふうな指導なり対応をするかということによって認知の件数に大分左右されてくるかなと思うので、もし検証されるんだったら、複数のチェックポイントで検証していくことが多分必要になると思います。

私が気になったのは、まず1点目、先ほどの御説明の中で神戸市のその問題行動の発見が、教師が綿密に見ているからという御説明で、いわゆる暗数と実際の実数との関係において綿密に調査してるからということだったんですけど、それはこれ相对比较の問題のほずなので、ほかのところと比べて、神戸市が特にそういうことをやっているという説明だったら分かるんですけど、その場合、何が根拠になって、そういうふうな御説明だったのかなというのが知りたいところの1点目です。

で、2点目は的外れな質問だったら、もうお答えいただかなくても大丈夫なんですけど、御説明のその概要版の中で暴力行為の内訳で最も多いものということで内訳に注目されて、確かにこれ80%なんでちょっと多いんかなという気はするんですけど、これは例えばほかの項目の比率が低いという見方も可能なはずなので、私も発生件数を人数比で計算してないのでぱっとつかめてないんですけど、これはどういう意図で2番の暴力行為の内訳で最も多いものを出していただいているのかという問題意識を共有させていただけたらなと思いました。

以上です。以上、特に2点、後半はもし今可能だったら答えていただければありがたいです。

(吉井児童生徒課長)

すみません。2つ目なんですけども、3ページのところに、その暴力行為の内訳の全体のところ、2の(1)がございます。こういう4つの分割で報告をするというような形になっております。で、1つ、いわゆる最も多いものということで、その暴力行為の内訳として多いものをここに出ささせていただいているという趣旨ですので、全てこれが特筆すべき

内容かというところ、そうではなくて、その中でこういったものが多いという趣旨で、ここを表記させていただいてるという趣旨でございます。

(山下委員)

それは分かるんですけども、その根底に何か、こういうお尋ねしましょうか。何か問題意識としてお持ちのことがあったら、ちょっと教えていただきたいかなと思いました。もし後半の話に関わってくるようだったら、後半といいますか、非公開のところでも結構です。単にこれで比率が高いですっていう御報告だったら、それはそれとして受け止めてさせていただきます。

(吉井児童生徒課長)

後ほど協議の中でということですのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

(長田教育長)

後ほどまたそのあたり議論いただきましょうか。ほかに御意見ありませんか。それでは、この際、ほかの案件等についても結構ですが、何か御意見はございませんか。また、何かありましたら、事務局のほうまで御連絡をお願ひしたいと思ひます。それでは、本日の公開案件はこれで終了をいたします。

閉会 午前9時21分